

地域の創生を目指して 最上のまちづくり！

市議会3月定例会が2月23日から3月22日までの29日間の会期で開かれ、平成28年度予算などの議案が上程され審議されました。

青野市長が議会初日に述べた、市政に臨む所信と新年度の具体的な施策の概要についてお知らせします。

創意工夫で切り拓く 新たな段階

今まさに地方都市は、自らの未来を自らの創意工夫で切り拓く新たな段階を迎えていると感じています。

我々を取り巻く日本経済の動向に目を向けますと、「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」からなる「三本の矢」の経済財政政策によって、過去最高の企業収益や、雇用・所得環境の改善などが見られ、景気は、全体として緩やかに回復基調を示しているところです。

一方で、中東地域の政情不安や中国経済の先行きなど、国際的な不安定要因の顕在化とともに、これまで新興国が力強くけん引してきた世界経済の不透明感が増してきています。

そのような中、政府はデフレ脱却・

経済再生に向けた取り組みを着実に前進させるため、これまでの三本の矢を束ねた「希望を生み出す強い経済」を新たな第一の矢として、「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」を加えた「新・三本の矢」を一体となつて推進し、成長と分配の好循環を強固なものとする決意を示しました。

また、新たな付加価値を生み出し、持続的な成長を確保するイノベーション型経済成長への転換を図るなど、新しい経済・社会システムの創造へ挑む「一億総活躍社会」の実現を重要政策として掲げており、地域の創生を担う地方都市においては、まちづくりのアイデアやその実行力をあらためて問われる転機を迎えています。

そうした国策の変化を受け、本年は西条市にとりましても地域資源を生か



した主体的なまちづくりをさらに加速させ、創意工夫をもって新たな取り組みにチャレンジする重要な一年になるものと考えています。

地域の創生に向けて

本市においては、昨年4月から「第2期西条市総合計画」をスタートさせるとともに、10月には全国的な課題である人口減少の克服に向けた「西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところであります。

この総合戦略においては「産業振興による活力あるまちづくり」「西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり」「子育て世代に選ばれるまちづくり」「安全・安心で暮らしやすいまちづくり」を政策目標として掲げ、関連

施策の戦略的展開を図ることとしています。

昨年1月、首相官邸で本市の地域再生計画が法改正後第1弾の認定を受けてから1年、全国から注目を集める「総合6次産業都市の実現」をリードイング・プロジェクトに据え、地域経済の活性化、ひいては地域の創生をけん引する取り組みを続けてまいりました。

このような中、道前平野地区における国営緊急農地再編整備事業や、東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業など、将来の当地域の産業基盤強化に欠くことのできない大規模事業も着実に進捗し、新たに木材利用の可能性を高める木質構造用材料・CLTを活用した林業の活性化を加え、総合6次産業化の裾野を広げた産業振興策を展開してまいります。

また、「西条市版地域創生コミュニケーション・インサイト」の運用開始で情報発信力の強化を図り、域外から本市まちづくりへの関心をさらに高めるしくみづくりによって、観光などの交流人口や、ふるさと納税のさらなる拡大、将来の移住・定住へとつながる新たな価値・「西条ブランド」の創出につなげてまいります。

さらに、これまで整備を進めてまいりました教育のICT化も本格運用を迎え、教育環境のさらなる向上が図られますとともに、新たに、小中学生の



▲利用路線の拡大・拡充を図る「いきいきバス」

通院医療費助成を開始し、これまで以上に、安心して子育てができる環境が整ってまいります。

そして、積年の課題でありましたJR伊予西条駅のバリアフリー化や「いきいきバス」制度の利用路線拡大に取り組むなど、市民の皆様の暮らしやすさを、さらに向上させる環境の整備にも努めてまいります。

併せて、本年1月に待望のオープンを迎えました協働のまちづくり拠点である「西条市市民活動支援センター」に加え、4月には地元愛媛大学の拠点機能を中核として広く産学官連携を支援いたします。「西条市地域創生センター」のオープンを予定しており、地域における市民活動や学術・研究活動の支援体制が整う中で、地域が自ら課題を解決できる環境整備を進め、地域全体の活性化につなげてまいります。

最上のまちづくりで「チャレンジ」

これら、これまでのまちづくりに新たな取り組みを加えた多様な施策展開によって、本市は、産業都市としての基盤強化を図りつつ地域経済をけん引し、海上輸送の利便性を生かした防災・物流の拠点、地域資源を生かした人々の交流拠点、産・学・官・金・地域の連携拠点といった四国地方で確固たる役割を担いながら、「選ばれるまち」として、その未来を切り拓くための歩みを力強く進めてまいります。

以上のような思いをもって、新年度においては、これまでのまちづくりをさらに深化・加速させる「チャレンジ」の年と位置付け、これまでに培った市民の皆様との対話で築く強いパートナーシップ「市民総参加のまちづくり」を基本姿勢としながら、引き続き直面する課題に真正面から取り組む積極果敢な市政運営に努めてまいります。とりわけ、市民の皆様と共につくりあげた第2期西条市総合計画に基づく長期的なまちづくりを着実に推進するとともに、西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略による今日的な政策課題の克服に努め、内外の環境変化を敏感に見極めた創意工夫とスピード感のある施策立案によって地域創生のトップランナーとなるまちづくりへとつなげ

てまいります。そして、地域経済の持続的發展と市民生活の安全・安心の確保を旨としまして、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現のため、誰からも「住んでみたい」「住んで良かった」と思われる最上のまちづくりを今後ともまい進する決意です。

新年度施策の主な内容

健やかに生き生きと暮らせる福祉のまちづくり

高齢者福祉の充実については、高齢者の方々の通院や買い物など外出を支援するために、平成25年度から始めた「いきいきバス」を発展的に見直し、対象路線を、市内を運行する全てのバス路線に拡大させ、利便性の向上を図ります。

地域福祉の充実については、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が平成28年4月1日から施行されますことから、職員対象の手話勉強会を充実させるなど、愛媛県と連携を図り、障がいや理由とする差別の解消を推進し、誰もが互いの人格を尊重し合いながら共生できる社会の実現を目指します。

子育て環境の充実については、新たに小中学生の通院医療費まで助成対象を拡充します。これにより、現行の制

度と併せて中学生以下の医療費は完全無料化となり、子どもたちの健康維持と子育て世代の負担軽減をより一層図るとともに、放課後児童クラブなど各種事業を継続し、総合的な施策を展開させることで子育て世代に選ばれ、安心して子育てができる環境づくりに取り組みます。

健康づくりの推進については、まずその基本は日々の食生活であり、昨年策定した第2次西条市食育推進計画に基づき食育の実践の中で、特に減塩に対する意識啓発を家庭・学校・地域と広げ、市全体に減塩対策の普及を図り、生活習慣病の予防と啓発に努めます。

また、地域医療体制については、愛媛大学と締結した連携協力協定の趣旨に基づき、市による寄附講座を愛媛大学医学部が市立周桑病院に開設することで協議が整いました。これに伴い診療支援として医師が派遣され、市内の医療・救急体制の強化と、より高度な医療サービスが提供できると期待しています。

そして、本年は平成29年に開催される第72回国民体育大会、第17回全国障害者スポーツ大会の円滑な運営に向けての競技別リハーサル大会が予定されています。課題等をしつかり検証し、施設の整備をはじめ、おもてなしの心で受け入れるための環境整備を行い、市全体として来年の本大会の成功に向けて取り組みます。

**豊かな自然と共生する
まちづくり**

昨年策定しました生物多様性西条市地域連携保全活動計画を推進し、石鎚山から瀬戸内海までつながる水域ネットワークのエリアにおける観察会等を通じて、その重要性の理解を促し保全を行い、豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいきます。

また、一貫して申し上げております、本市の財産である地下水を守るため、現在策定中の地下水保全管理計画に基づき、安全・安心で持続可能な地下水利用を進めるとともに、「地下水の保全に関する条例」を見直し、行政と市民そして事業者が連携し、市全体で地下水保全の取り組みを進めます。

そして、合併からの懸案事項でありました下水道使用料の統一については、平成28年2月15日に使用料等審議会から答申を受け、料金統一に向けて第一歩を踏み出します。今後は、一層の効率的な事業運営と健全経営に努めますので、どうかご理解賜りますようお願い申し上げます。

快適な都市基盤のまちづくり

交通体系の整備については、西条市地域公共交通活性化協議会での議論を踏まえ、山間部においてデマンド型乗

合タクシーを実証的に運行し、地域の実情に見合った交通体系のあり方を検討します。さらに、旧西条市街地における既存のバス路線を循環的経路に見直しを行うなど、市民生活に寄り添い利用者ニーズに対応した地域公共交通網の構築を進めます。

また、空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するため、「空家等対策計画」を策定するとともに老朽危険空家の除却に対し助成を行い、危険家屋の除却を促進させ住環境の向上を図ります。そして、公共施設等の老朽化対策としては、「公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設全体の状況を把握するとともに、施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的かつ効果的に行うための実施方針を示し、次世代への財政負担の軽減に努めます。



▲利便性向上が期待される JR 伊予西条駅のバリアフリー化

レバーター・多機能トイレ等を設置することとなりましたので、利用者の利便性が飛躍的に向上すると期待しています。

災害に強く安全で安心して暮らせるまちづくり

防災・減災対策の強化については近い将来に高い確率で発生が予測される南海トラフ巨大地震を想定し、引き続き「死ぬな、逃げろ、助けろ」を合言葉に、総合防災訓練を各消防署管内で実施し、「自助」「共助」「公助」の強化に取り組みとともに自主防災組織の結成および訓練支援を行い、災害に強い地域づくりを進めます。

また、防犯灯の照明を蛍光灯からLEDに交換する自治会が急増していることから、昨年度、自治会等を対象に調査した取り換え計画の結果により、器具取り換えの経費に対する助成を計画的に行い、地域における犯罪の発生を抑制し、安全で安心して暮らすことのできる環境づくりを積極的に支援します。

**豊かな心を育む
教育文化のまちづくり**

学校教育の充実については、昨年度の小学校に続き、全中学校に電子黒板等を設置し、ICT教育を進展させま

す。特に昨年度実施した「ICTを活用した教育実証事業研究大会」および「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」では、子どもたちの生き生きとした様子や楽しい合同授業など確かな手ごたえを感じました。今後もICT教育による質の高い教育を充実させ、子どもたちの学力向上を目指します。

歴史文化の保全・活用については本年9月30日、10月1日に古代山城サミット西条大会を開催します。この機会に永納山城跡を全国に向け積極的に情報発信するとともに、併せて基本計画に基づき、史跡の保存・環境整備を行い、地域の貴重な文化資源として周知・啓発を図ります。

また、世界的に高い評価を受けている市之川の輝安鉱については、市之川公民館内の展示室・鉱山資料室を拡充・改装し、展示内容を充実させるとともに、市内外への情報発信に努めます。昨年度、十河信二先生顕彰事業として市民参加により公演したミュージカルは、完成度も素晴らしく来場者を魅了しました。その後、再演希望も多く、本市に芽吹き始めました演劇文化を育てるため、(仮称)西条市坊っちゃん劇場アカデミーを開講し、市民の演劇文化意識の醸成を図ります。また、十河信二先生をはじめ、郷土から多くの偉人・先人を輩出しており、松木幹一郎先生といった方々に関する顕彰を行

い、その業績を紹介することで、先人に続く人材を育てるとともに、郷土への誇りと愛着を育みます。

活力あふれる 産業振興のまちづくり

農業の振興については「総合6次産業都市」の実現に向け、生産・加工・流通・販売の流れの機能をより充実させるために、引き続き加工用農産物の産地化に取り組むとともに農地集積、遊休農地解消や、ほ場整備事業を推進することによって農業経営の基盤強化を図り、効率的で収益性の高い生産体制の実現に向けた取り組みを進めます。

特に、本年は、産学官連携や高度専門人材の育成に取り組む拠点施設として地域創生センターが開館します。大学などの高等教育・研究機関の拠点が設置されることで、地域の課題解決、企業との共同研究、市民や地元高校との連携等、その活用が大きく広がることを期待しています。なお、既に愛媛大学からは、センター拠点の設置を表明していただいております。総合6次産業も含め、さらなる連携・活用を目指します。

林業の振興については、地域産材の競争力強化に向け、CLT（直交集成板）等の活用を視野に入れた木材利用の普及拡大を支援し、生産基盤を強化することで林業の活性化を推進します。

また、近年、農作物や森林等への被害拡大と市街地等にも出没し問題となっている有害鳥獣の被害防止対策として、従来の捕獲・駆除に対する補助事業に加え、緊急捕獲奨励金の上乗せ補助を実施することにより、有害鳥獣の捕獲や駆除を加速させ、被害の軽減に努めます。

水産業の振興については、水産の多面的機能の維持強化に対する取り組みを支援するとともに、収益力強化に資する施設の整備を積極的に促進し、経営の安定化を図ります。

ものづくり産業の振興については昨年度、ベトナム国ハノイ市に開設した西条市ビジネスサポートデスクを活用し、国内での国際展示会出展など市内企業のさらなる商談機会の創出や事業展開の支援を継続して行います。

また、先日、石破地方創生担当大臣が記者会見で言及されてきました地域経済分析システム（REAS）を活用し、新居浜市と合同で開催したワークショップにより見出された両市連携の優位性を捉え、地域中核企業と中小企業のマッチング事業や人材不足解消のための合同就職説明会を開催するなど、当該地域の既存企業のさらなる発展につながる施策展開や企業誘致に引き続き積極的に取り組みます。

観光産業の創出については、本年か8月11日が「山の日」と制定され、これを契機に石鎚山系への観光客の増

加が見込まれることから、登山道・案内標識等の整備を行うとともに、地域間の広域連携の強化を図り、魅力情報を積極的に発信します。

また、伊予の三湯と称される本谷温泉の本館および新館は、老朽化が進み各設備も破損・劣化が見受けられることから、今回、大規模な改修工事を実施し、本年12月のリニューアルオープンを行う予定としております。利用者並びに地元の皆様にはその間ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

そして、西条市観光協会が、本年4月に新たに一般社団法人西条市観光物産協会として設立される運びとなりました。法人化により、組織強化が進み、観光交流センターを拠点とした観光PRや物産販売等の拡充が期待されますので、今後さらなる緊密な連携により、さまざまな取り組みを実施し、西条の魅力発信と観光産業の振興を図ります。

時代の変化に対応した 地域づくり

名曲「千の風になって」のまちづくりとして、第3回目の「千の風になったあなたへ贈る手紙」を募集します。今回は、選考委員に秋川雅史氏にも参加いただく予定で、プロのアーティストの力もお借りして、さらに手紙のふるさとしてふさわしい取り組みを行



▲協働のまちづくり拠点「市民活動支援センター」

っていきます。

また、西条うちぬき倶楽部をふるさと応援の中核に据え、全国で活躍されている西条市出身者等とのネットワークを活用し、市政に関するアイデアや情報を収集するとともに、市のPRや魅力情報の発信等を引き続き積極的に行い充実に努めます。

そして、本年1月に開設しました市民活動支援センターでは、市民の皆様や団体の公益的な活動を総合的に支援する拠点施設として活発な運営がなされ、協働のまちづくりがさらに進むことを期待するとともに、市においても「ヒトづくり塾」を開催し、地域を担うキーパーソンと成り得る人材を掘り起こし、まちづくりの新たな活力を創出します。

以上、平成28年度の市政運営につきまして、私の所信の一端を申し述べました。議員の皆様方をはじめ、市民の皆様方の温かいご理解と一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。